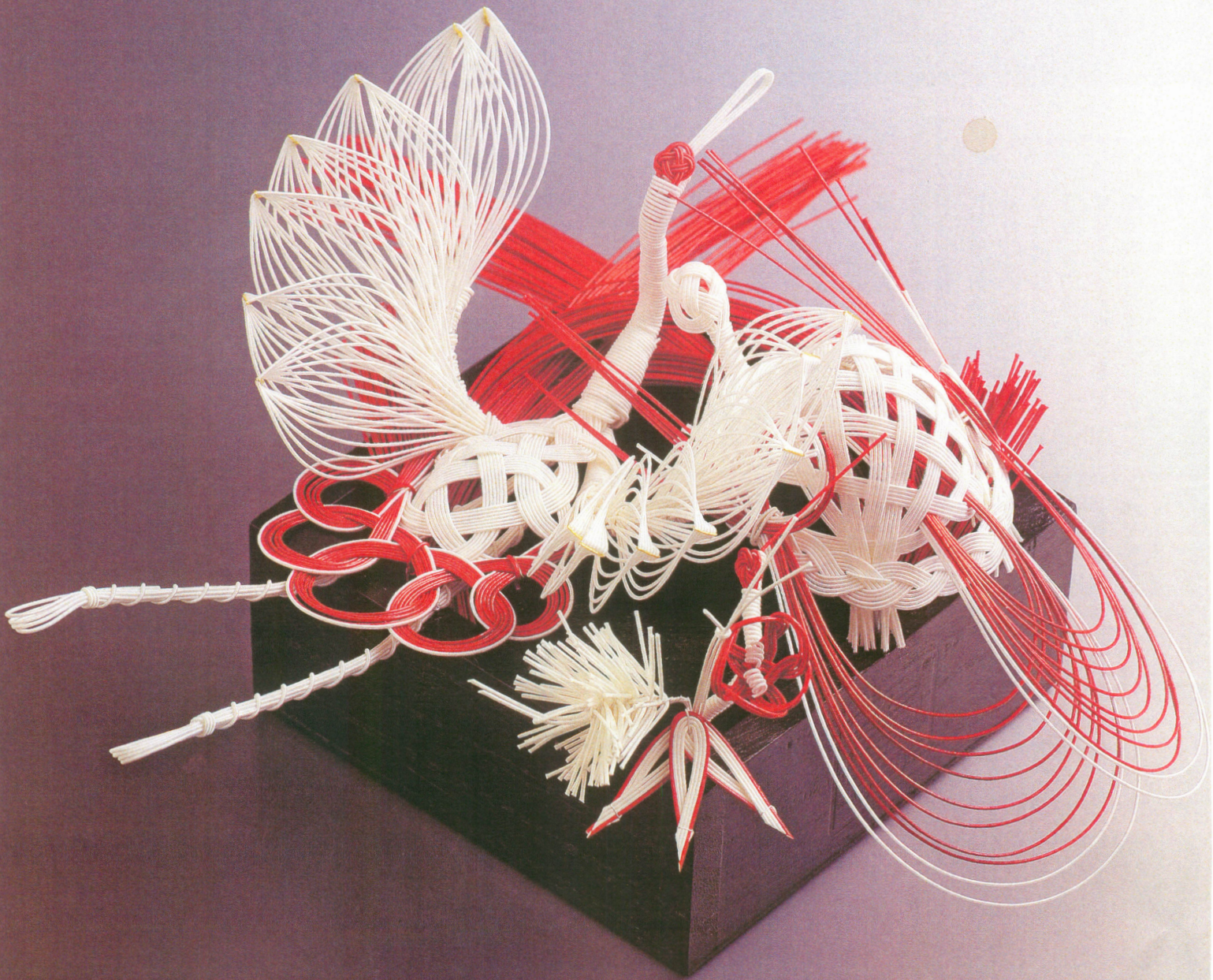


# TSU NA GU

[ 繋ぐ ]

Vol.5 2009 SPRING





飛鳥時代に日本に入ったといわれる「かさ」。頭に被る「笠」にも和紙が使われていました。

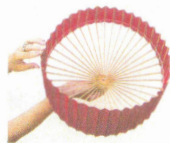
京和傘は、和紙、竹、木、亜麻仁油、漆、柿渋、タビオカなどの天然素材を使用して、それぞれ専門の職人の手を経て数週間から数ヶ月かけて作られます。

和紙と油によるものでしょうか、開いた時の独特の匂いは「和の香り」ともいえるでしょう。開いた和傘を細部までじっくりと眺めれば、日本の精緻な伝統美に改めて驚かされます。

京和傘を太陽にかざした時の和紙を透したやさしい光と、幾何学模様の織り成す竹骨の美しさを広めたいと考案されたのが、和風照明「古都里 -KOTORI-」です。2007年度グッドデザイン賞も受賞しており、海外から高い評価を受けています。特にヨーロッパでは人気が高く、フランスのデザイナーとのコラボ商品なども開発されています。

現代では和傘製造店も少なくなってしまったようですが、一方で違う形に反映させ、技術を継承し進化させていく人々が、

日本の財産 を守り続けているのです。



シェードは和傘のように開閉ができるので、季節や気分でバリエーションを持たせることも可能

紙・かみ・かみ

京和傘  
和風照明

和風照明「古都里 -KOTORI-」

守られ、進化する

日本の伝統美・伝統技術

